



一隅を照らそう
6月号

293号
毎月28日発行

E-mail: info@tougakuin.jp

帰る旅

住 職 中島 有淳

朝日新聞の5/25朝刊に、役者の樹木希林さんが、語る「人生の贈り物」という連載の最終回(14)に「人生、上出来でございました」と題して記事がありました。

ガンを永く患っている彼女が「いつかは死ぬ」ではなく「いつでも死ぬ」という感覚で、「借りていたものをお返しするんだ」と考えたとすぐ楽だという。さらに人から見るとそれを「覚悟」というかもしれないが、「覚悟」が決まっているということでもない、と。それなりに生きてきたように、それなりに死んでいく感じ、とありました。

この連載記事を読んで、私もこういう言葉をはいて、「はかない旅」を楽しみたいものだ、と、つくづく思ったものです。よく人生とは自然に帰る旅であるといえます。

作家の高見順の「帰る旅」というのに、

帰れるから

旅は楽しいのであり

旅の寂しさを楽しめるのも

わが家にいつかは戻れるからである

だから駅前のしょつからいラーメンがうまかったり

どこにもあるコケシの店をのぞいて

おみやげを探したりする

この旅は

自然へ帰る旅である

帰るところのある旅だから

楽しくなくてはならないのだ

もうじき土に戻るのだ

おみやげを買わなくていいか：

人生を旅にたとえることはよくあることです。

昔は、旅をするには苦難がともなったから人生にたとえたのでしよう。しかし、現在旅はとても楽になりました。でも旅の最後には終着駅があります。そこに近づく、忘れ物がなくように確認をするのです。そしてこの作業はそのまま人生の旅に通じます。旅路が永いと荷物も多くなり、人生行路もおなじです。体(心・口・意)という目に見えない名前で作ってきた荷物は、年齢に応じて沢山になります。これらの荷物は最後の終着駅では自分で持たなければ誰も持ってくれないのです。いつも自分の持ち物を整理整頓するのは、賢い旅人の心構えといえます。

種田山頭火に「持ちきれない荷物の重さ 前後」という句があります。終着駅が近づいたというアナウンスがないうちに、お互いに注意したいものです。 *参照 松原泰道全集「法華経のこころ」より

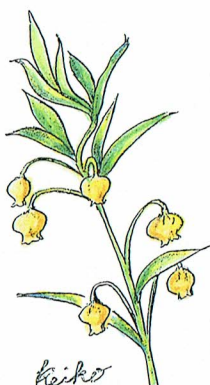
養生十訓

- 一、少肉多菜
- 二、少塩多酢
- 三、少糖多果
- 四、少食多嚼
- 五、少衣多浴
- 六、少車多歩
- 七、少煩多眠
- 八、少怒多笑
- 九、少言多行
- 十、少欲多施

折りふしのはな

サンダーソニア

久しぶりにお花屋さんの
店先で見かけた
サンダーソニア



keiko

オレンジ色のやさしい花は
ふとある人を思い出させてくれました
その方は三十年前に
都忘れの花を届けてくださった方で
サンダーソニアが大好きですと
仰有っていました

頂いたお花は根をつけて
毎春花を咲かせてくれます

(遊)

月例行事案内

- ◎八 日 午後二時
薬師如来祈禱会 観音経誦誦
- ◎十二日 午後二時
智泉院法要日(於・日本橋茅場町)
- ◎十八日 午後二時
観音経誦誦法要(於・神木観音堂)
- ◎二十八日 午後二時
不動明王護摩供修行

どなたさまでも
ご参詣下さい

* 毎朝 六時より公開で朝のお勤めをしております
ご都合のよろしい時にはご一緒にどうぞ



kei

おどろき

○六月に予定されていた米朝首脳会談が中止に？北朝鮮が核実験場を爆破した直後のトランプ大統領の中止書簡。逆戻りした両国の関係に解決の糸口は。また対話の復帰はあるのでしょうか。中国の去就も注目です。

○平和な日本とはいえ、安倍首相の政治手法はとも強引です。「付度」をさせる土壌を容認しながら、権力を築いてきた政治社会の闇に、どのようにして光をあてることが出来るのでしょうか。○横綱白鵬VS栃ノ心の対決は、がっぷり四つの力相撲で見ごたえがありました。勝負を制した栃ノ心は、これで大関を手にしたようです。他方、日大アメフト部の事件は指導者の言動に政治家のような「付度」を押しつける構図を想い描かせ不快です。

○来たる5/31開催の「天台宗 一隅を照らす運動 神奈川相模大会」に廊下に設置の募金箱と浄財の金、七一、八五一円を寄託します。ご協力有難うございました。

○山報の花のイラストを描いている長女が、四月に女兒を出産。里帰り中です。新生児の泣声とぬくもりに発育の健全を祈ります。○つつじの刈り込みが進み、きれいになりました。清々しい初夏の風が吹き抜けています。

合 掌